

(1922)

原著 新川 日本人頭蓋重量ニ就テ追加

一四八

## 日本人頭蓋重量ニ就テ追加

金澤醫科大學解剖學教室(岡本教授指導)

學生 新川 一二

余ハ金澤醫科大學十全會雜誌第三十二卷第十一號ニ「日本人頭蓋重量ニ就テ」ノ論文ヲ發表シタリ、然ルニ當時宮本氏ノ「頭蓋骨ノ研究」(東京人類學雜誌、第三十九卷、第十號、東部亞細亞ニ於ケル諸人種ノ人類學的研究、第二現代日本人骨ノ人類學的研究第一部)中ニ男性三十例、女性二十例ニ於ケル頭蓋重量ヲ計測セル文獻ニ就テ附記スルヲ遺漏セリ、從ツテ余ハ茲ニ再ビ宮本氏ノ計測ニカ、ル畿内人(京都市大解剖標本)ノ頭蓋重量ト北陸即チ金澤標本ト比較セントス。

宮本氏ノ京都頭蓋ハ其脫落紛失齒牙ヲ補フニ Surin ニ從ヒ、

門	齒	一	瓦	
犬	齒	一・五	瓦	
前	臼	齒	一	瓦
後	臼	齒	二	瓦

トシテ加算セリ、此レト余ガ曩ニ日本人年齡三十歲代ノ各齒牙ニ就テ計測セルモノト比較スルニ、犬齒ニ於テ Surin ヨリモ〇五瓦輕ク、其他門齒ニ於テモ後臼齒ニ於テモ亦日本人ノモノ輕シ、唯小白齒ノミハ僅カニ重シ、(十全會雜誌第三十二卷、第十一號、八四頁各齒ノ重量參照、別冊第二頁)斯如キ齒牙ノ重量ニ僅カナガラモ差異アルニ於テハ、モトヨリ日本人頭蓋重量計測ニハ日本人齒牙ノ重量ヲ以テ補フベキヤ明カナルベシ。猶余ハ既ニ Pellenstier ノ日本人頭

(1923)

蓋ノ重量アリシヲ知ラザリキ、宮本氏論文ニヨリテ此レヲ知ルヲ得タリ、同氏ニ謝スル次第ナリ、Pellensier ノ 〇七  
〇〇瓦、早六一九瓦ハ余ノ 〇六八八・二二瓦、早五一三・九八瓦ニ比シ遙カニ重シ、宮本氏ノ畿内人 〇七三・二二、早六  
五九・六ニ比シ余ノ金澤標本ハ更ニ輕キガ如シ、又下顎骨ノ重量ニ就テ、Pellensier ハ 〇九一瓦、早八三瓦ナリト云フ、  
宮本氏ノ畿内人ニテハ 〇九二・五瓦、早八三・二瓦ナリ、余ノ金澤標本ニテハ 〇九二・二瓦、早六〇・七九瓦ニテ男性ニハ  
差異彼レト少ナケレドモ女性ニ於テ著シキ差異アリ、然シテ宮本氏ハ畿内人ニテハ頭蓋ニ對スル下顎重量ノ比例ニ於  
テ男女性別無シト云フモ、余ノ金澤標本ニテハ著シキ差異アリ。

此等ノ問題ニ就テハ宮本氏ノ材料ハ老年ノモノナキヲ以テ、老年者ヲモ有スル余ノ材料ノ平均重量ヨリモ一般ニ重  
キヤ想像シ得ベシ、故ヲ以テ余ハ余ノ材料ノ結果トノ差異ニ重キヲ置クモノニアラザルモ、茲ニ追加シテ、宮本氏ノ  
精細ナル計測業績ニ敬意ヲ表スルモノナリ。

(昭和二、一一、二〇)。